

第6回 宇都宮市東部地域渋滞対策協議会

議事概要

- 1 日時 令和6(2024)年3月1日(金) 14:00~15:30
- 2 場所 栃木県庁 北別館 403 会議室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 議事
 - (1) 社会実験の全体説明 (資料1)
 - (2) 宇都宮市東部地域の交通量の推移について(資料2)
 - (3) CCTV を活用した AI 画像解析について(資料3)
 - (4) LED 表示板設置の社会実験について
 - ① 実験の概要について(資料4)
 - ② LED 表示板による迂回誘導の効果検証について(資料5)
 - ③ 社会実験に関するアンケート結果等について(資料6)
 - (5) 公共交通の利用促進について
 - ① LRT 沿線における P&R 利用状況について(資料7)
 - ② LRT の利用状況等について(資料8)
 - (6) 協議会の取組に関するまとめ(資料9)
- 5 主な質疑・意見
 - (1) 交通量 AI 画像解析の状況について
特になし
 - (2) 宇都宮東部地域の交通量の推移について
特になし
 - (3) CCTV を活用した AI 画像解析について

○福森委員

・この後、弊社(本田技研工業(株))の報告にもあるが、令和5年12月15日の夕方に白楊高通りと鬼怒通りの両路線が混雑していたという結果が出ている。AIカメラも同様に混雑していたという結果であり、LED表示板による誘導の効果が少なかったと思えるが、この時の国道123号の混雑状況はどうだったのか。

(宇都宮大学)

- ・暗くなってしまいやや精度は落ちるが、交通量は多かった可能性がある。

(長田会長)

- ・グラフから判断すると12月15日の19時台は、交通量が若干多いようである。

○谷委員

- ・AIカメラの車両軌跡の見方を説明していただきたい。

(長田会長)

・11月までは走行車線と追越車線の2本の軌跡の束を確認できるが、12月に入ると車線の間で別の軌跡が見られるようになる。12月に入ると前方の混雑を避けるため、交差点から追越車線に進入する車両が増えているのではないかと推測される。この推測について今後検証が必要。

・また、実験期間中に精度向上のためカメラの画角や高さを調整しているが、冬期の夜間及び早朝は照明の弱い箇所での精度が低下することが確認された。

(4) LED表示板設置の社会実験について

- ① 実験の概要について(資料4)
- ② LED表示板による迂回誘導の効果検証について(資料5)
- ③ 社会実験に関するアンケート結果等について(資料6)

○福森委員

- ・アンケート結果については、真摯に受け止める必要がある。
- ・人の行動変容には15分から20分の差がなければ、これまでと同じ慣れた道を進むという知見があり、今回の場合も、経路変更に至らないケースがあったのだと思う。

(長田会長)

・LED表示について、今回は多くの時間帯で表示時間に明らかな差が出なかったことがこうした意見に繋がったと考える。

○吉田委員

- ・LED表示が役に立っていないという意見が多いアンケート結果をネガティブに捉える必要はない。
- ・LED表示板を見る人と見ない人がいて全体のバランスが取れる。全員が表示通りに行動すればバランスが崩れ、渋滞を引き起こす。
- ・社会実験の結果は、そういった事が確認できたことから有意義なものであったと思う。

・AI カメラの解析との組み合わせでボトルネック箇所の細かい対策検討にもつながり有効であると感じた。

・LRT の整備により車線数が減少したものの、交通量と速度についてはバランスが取れている状況となっており、現時点では概ね良好な方向であるといえる。

(長田会長)

・AI カメラのデータを見ると 12 月の交通量は減少している。AI カメラのデータは一定の計測ラインを超えた車両を集計しているため、混雑していると計測されない現象もあり得る。

・AI カメラのデータや、本田技研工業(株)のプローブデータ、栃木県のトラフィックカウンターのデータ等を総合的に解析していくことが交通の変化を知るには重要なことである。

○赤澤委員代理齊藤氏

・アンケート結果に「信号待ちが長くなった」という回答が増えているが、具体的な場所や、主道路・従道路のどちら側なのか等、今後の信号調整を行ううえで参考になる情報はあるか。

(事務局)

・WEB を用いた選択式のアンケートであり、具体的な場所や主道路。従道路の特定はできない。

○谷委員

・SNS を活用した実験の周知として、X のアクセス数はどれくらいあるのか。また、コメントはどのようなものがあつたか。

(事務局)

・協議会開催 1 ヶ月前で約 1400 アカウントのアクセスがあつた。

○吉田委員

・LED 表示板が有効であるとした場合、いずれは常設することを検討しているのか。

(事務局)

・常設については、もうしばらく様子を見てから検討したい。

・交通の流れが平準化している時期よりも、交通の流れに変化が生じた場合に有効であると考えている。

・常設した方がよいのか、期間を限定して設置した方がよいのか、コスト面も含め検討した

い。

(長田会長)

・常設となると情報の出し方が課題となる。空いている方向が常に変化すると、急激な交通流の変化が起こる恐れがある。その上で、今回の社会実験は意味のあるものであり、引き続き検討できればと思う。

○谷委員

・このような技術の精度が上がり、プローブデータからすぐに LED 表示板に反映することができれば、2年前の足利の山火事の際に発生した交通混乱なども防げる可能性があるのではないかと思う。

- ・日光や那須の渋滞対策にも活用が考えられる。
- ・将来的に非常時に活用出来るようなシステムになるとよい。

○吉田委員

・足利の山火事の際は、カーナビの示すルートに交通が集中したため災害渋滞が発生した。
・多くの車両が足利 IC で降り、市内経由で北関東自動車道に乗り直した。
・今回の実験のように、情報をあてにする人としらない人の選択するルートに差が出てくれば交通が平準化され、交通混乱は起こらなかった可能性がある。
・今回の実験結果をこの先どのように実社会に反映していけるか非常に興味深い。

(5) 公共交通の利用促進について

- ① LRT 沿線における P&R 利用状況について (資料7)
- ② LRT の利用状況等について (資料8)

特になし

(6) 協議会の取組に関するまとめ (資料9)

○長田会長

・LRT の開業後まだ半年近くしか経過しておらず、自動車交通も安定していないことから、公共交通の利用促進など交通円滑化の取組を次年度以降も継続して行く必要があると考える。事務局としてはどのように考えているか。

(事務局)

・今回の社会実験は、国の公募による制度を活用し、今年度まで3年間実施してきた。これまでに一定の成果もあがり、今年度をもって一つの区切りとなるが、当該地域のさらなる交通円滑化のため、引き続き観測や検討を進める必要があると考えている。
・次年度以降は、宇都宮市と連携しながら、当該地域の交通状況について、新たな目的を設

定しつつ継続実施していきたい。

- ・委員においては、引き続き忌憚のないご意見をいただきたい。

(長田会長)

- ・事務局においては、当該地域のさらなる交通円滑化に向けて取組を進めていただきたい。
- ・委員においては、引き続き忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

—以上—